



日本共産党議員団

いさ 哲郎

区内産業の支援

産業振興方針(骨子)の中で、個店支援の強化を明記しているがなぜなのか。

商店街の活性化には魅力的な店舗を増やすことが不可欠であると考えたためである。

他の自治体では、商店リニューアル助成、リフォーム助成、エネルギー価格高騰緊急対策支援を実施している。

現在、経営安定支援資金に本人負担率を無利子にする優遇措置を行っているが、今後も支援策を検討していく。

進、支援するため、在り方について検討していく。

ヒートアイランド対策

ヒートアイランド現象に対する区の認識を伺う。

地球温暖化対策を進めながら、取り組む必要がある。

樹木を増やす努力が必要と考える。世界の大都市で使われている指標である樹冠被覆率を各種計画に採用しては

現在、みどり率を採用しており継続して使用していく。

中野駅南口駅前広場以外で、舗装の表面温度を下げる効果のある透水性コンクリート平板は使用しないのか。



公明党議員団

南 かつひい

中井駅、野方駅間の西武新宿線連続立体交差事業

地域の方には、完成がいつになるのかといった不安感がある。それを解消するため

工事内容の動画などを用いて沿線地域への説明会の開催や小・中学校の公開授業の実施を考えてはどうか。

今年度から、鉄道事業者のHP上における工事動画の掲載など、情報発信に努めると聞いている。区としても、東京都や鉄道事業者と連携し、情報提供に努めていく。

鉄道上部空間活用方針の検討状況は。

沿線で進められている各まちづくり事業と、他区の先行事例などを分析している。

また、まちづくり団体等からの意見や要望の把握など、検討を進めているところである。

区画街路第4号線の拡幅整備

現在の商店街の活性化を

図るため、マルシェやキッチンカー等に事業用地や壁面後退を活用することについて、考えてはどうか。

事業用地の活用も視野に入れ、関係部署と連携して支援についての検討を行っている。

商店街等との意見交換を重ね、検討を進めていきたい。

商店街の活気が薄れているといった現状を打開するには、どのようなことが必要か。

商店街や町会などが、現在の課題について共通の認識を持つ必要があると考えている。

地域の検討会を核として、当面の取り組みや今後の対応策の検討を促していきたい。

北部すこやか福祉センターの建て替え

旧沼袋小学校跡地での建て替えでは、延べ床面積が600平米以下に制限される。

みを行うことにしている。

子ども相談室が開設されたが、子どもたちが、より相談しやすい方法を検討しては

機能が縮小されざるを得ないことをどう考えるか。

現在の機能を確保するには、建築基準法上の特例許可を受ける必要がある。

現在の障害者福祉会館の位置で建て替えるべきでは

最適な整備手法を検討しているところである。



都民ファーストの会中野区議員

黒沢 ゆか

子ども食堂運営助成の見直し

昨年度からの物価高騰に対し、令和5年度は補助金の増額が必要ではなかったか。

団体との個別相談では、要望は多くなく、助成金の増額には至らなかった。

一時預かり支援の拡充

保育所・幼稚園・認定こども園に在籍している子ども保護者からのニーズがあるが、事業の今後の展開は

預かりサービスのニーズを把握し、利用しやすくなるよう最適な形を目指していく。

重度障がいのある子どもと家族のウェルビーイング

重度障がい児の目線で宿泊を受け入れてくれる場所がない。安心して預けられるシヨートステイを整備しては

事業者に対し、受け入れを引き続き働きかけていく。

介護現場の人材確保

人材確保には具体的な数量目標を持ち、介護人材対策事業を進める必要がある。今

後、必要となる介護人材数は、令和7年時点の不足数は、約750人と推計している。



立憲・国民・ネット・無所属議員団

間 ひとみ

令和4年度決算

財政調整基金積立金の不用品として9億円余が計上されているが、同基金への積み忘れはなぜ起ったのか。

複雑な処理を短時間で行ったためである。

新型コロナウイルス関連事業における特別な事情も併せて加味すると、実質収支比率7・4%

は適正範囲の3〜5%に収まる4・1%となるのでは

産後ケアのきょうだい預かり

物理的に実施可能な施設で、人件費見直し等の緩和を試験的に行ってはどうか。

経費的な側面における検討等、工夫を行う。

子どもに寄り添う不登校支援

モデル事業として、支援員を配置した校内別室登校支援室を設置しているが、今後

全中学校に展開していくのか

全小学校にも設置しては

民間フリースクールや保護者等様々な立場の方が集まる意見交換の場を設け、ニーズを捉えた支援につなげては

不登校児童・生徒に関わる人たちが意見交換できる機会を検討していく。



立憲・国民・ネット・無所属議員団

細野 かよ

認知症支援

認知症の方が、持っている力を発揮でき、生きがいややりがいにつながる仕組みづくりをオレンジカフェなどから始めてはどうか。

社会参加の機会を持つことは、本人の自己実現や認知症を、遅らせる上で重要である。対価を得られる仕組みづくりを今後検討していく。

ケアラー支援

ケアラーを支援の入口に

多様な防災リーダーそれぞれの立場を生かした活動を促進するため、動画や講座の共同作成等を行ってはどうか

特性を生かした活躍の場を創出していきたい。

災害ケースマネジメントの考えを、地域防災計画に盛り込むべきではないか。

盛り込んでいきたい。

香害(化学物質過敏症)

柔軟剤等に含まれる化学物質による香り成分で、体調不良を起こす香害について、教職員や保護者や子どもたちに向け、啓発を行うべきでは

啓発を強化していく。

子どもの権利に関する条例

子どもたちが自身が子どもの権利を実感でき、日々の生活に生かせるよう、ある学年に達した子どもたち全員を対象に、子どもの権利を学ぶ授業に取り組んではどうか。

区立小・中学校では、教育課程全般の大幅な見直しを図り、条例を生かした取り組み

厚生委員会視察報告



11月1日(水)から2日(木)に、福岡県北九州市の「母子手帳アプリ『きたきゅう子育て応援アプリ』」についてと、福岡県古賀市の「若い世代の生活習慣病予防の取り組み」について視察を行いました。写真は古賀市での様子です。

